



HP <http://azalea.ac.city.myoko.niigata.jp/himega-s/>

学校だより/姫川原小

9 月



大きくなったよ! 夏模様

暑かった夏が去った。青々した田がいつしか黄金色になり、車の窓から稲穂のいいにおいが入ってきた。この季節になると、何故か井上陽水の「少年時代」を思い出す。幻灯映画のようなおぼろげな夏のシーンは、やけどしそうな海の砂、従姉妹と蚊帳の中、押し入れの臭いのする布団……。母の実家に行くのが唯一の旅、遠ざかる昭和三十年代の光景だ。

平成の世の子どもたちの夏模様は、高床山でのキャンプ、家族とのバーベキュー、〇〇旅行、新井祭り、毎日が盛りだくさんで、休みがないような日々のようなだった。

その休みの間、一年生はヤギの世話に、二年生は畑に、五年生は田んぼに、それぞれの成長を見守った。植物は、休むことなく大きく生長していった。ついに子どもたちの背丈を越えていた野菜もあるほどだ。

五年生は十二名の構成で「さくら学年」という。学年の名にちなみ、米の名前は「ひらひらさくら米12」。桜の花びらが舞うように、たくさんのお米がとれてほしい願いをこめてつけた名前だ。生長記録のお米カレンダーを見ると、六月は二十センチだった稲が、七月に七十三センチに、八月に一メートルを超えていた。取水口近くの稲と基準値の稲をずっと比較してきた。同じ田で十センチ以上もの差が生まれるとは、子どもは想像していなかっただろう。データ根拠からの開花予想がびつたりに当たり、専門家のすごさを驚いた。

夏、稲穂一粒一粒に神秘的な花が咲く。小さな花が一面春霞のようにけむっている。この短い瞬間に初めて出会った子が大半だった。春、稲の神が桜の花となってお使いにくると考えられていた昔、偶然にも姫小の子どもが付けた名前が「さくら米」。おいしい「さくら米」がもうすぐ収穫できる。

全校算数を始めました



「みんなに生かされる私」を目指して

木曜日の二限目は全校で算数をします。全校が学ぶスペースのある図書室に集まり、それぞれの学年の課題解決学習を同時にスタートします。学年を越えた人とかかわりの中で、全校のみんなが解決できることを目指して、学ぶスタイルです。始めたばかりで手探りの状態ですが、子どもたちの意欲を育てる場として機能し始めています。

子どもたちは
頭を寄せて
分かるまで
教え
学び合います。



■全員合格目指します

「みんなができる」ことを目標に進めています。自分の課題が終わった人から、どんどん動いていきます。



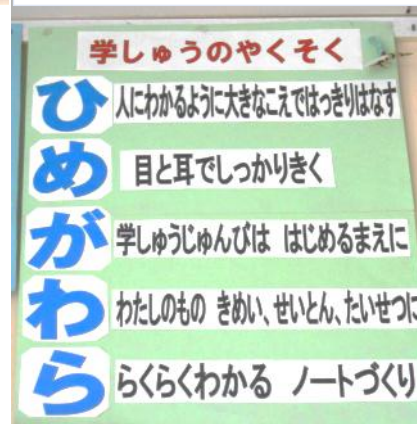
■分からないことは

はずかしくないよ

自分から進んで「〇〇が分からない」といえる子を育てています。一人で悩んでいないでいいのです。一人でも多くの人分かることに喜びを見出していきます。



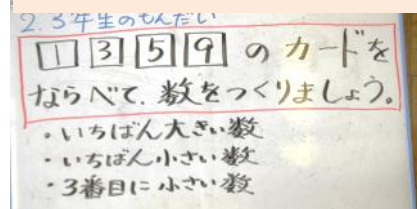
教師は
かわり
興味をそそる
課題づくり
環境づくりに
がんばります。



■説明力を目指した課題に

答えが分かってても、どうしてそうだったのか、自分で説明できて、初めて理解したと考えます。

当校の子どもたちに、欠けている「思考力」「説明力」をつけるための学ぶ場です。自分の考えをノートに図や式を使って書き、相手が納得できるよう説明することから始めます。



■環境づくり その1

各学年の課題を表示することで、子どもも教師も課題が共有できます。

■環境づくり その2

一人一人に名前の磁石を用意しました。課題が終了すると、磁石を白から黄色にひっくり返します。

* 7月の最後に初めて全員合格でき、みんなで大喜びの瞬間を味わいました。その喜びがまた次への意欲をかきたてていきます。



■環境づくり その3

大きなカード、九九表、ブロック、ミニホワイトボード、電卓、子どもにとって必要となる説明道具を選択できるように用意します。



階段の掲示物です。校舎内が「学ぶ環境」になるよう努力しています。

教えながら
相手を意識した
最善の説明を
考え出していきます。



■つながる心 広がる学び

素晴らしい説明を他の友達に早速紹介させます。

「なるほど」と、より速く正確に解ける考え方がどんどん広がっていきます。

仲間との交流は、別の考え方に気付かせてくれる学び合う場にもなります。



●最後は必ずふり返り

今日分かったことをまとめたり、友だちとのかかわりを振り返ったりします。



■教え上手は、説明上手

実は、教師より子どもの方が説明上手なんです。ミニ先生ぶりに感心させられることが多くあります。子ども同士の分かり合える世界があるようです。答えを教えるのではなく、ちゃんと考えさせていくのです。その子に合った説明の仕方をどんどん工夫していきます。相手が納得すると、「じゃ僕に言ってごらん」と、聞き役に回ります。



♥がんばったね
うれしいよ♥

(5年生の感想)

最初は、1年生にどう教えていいか悩んだけれど、どんどんやっていく



内にこつがつかめてきた。最初、分かっているのかどうか、つかめなかったけれど、相手から反応がどんどん出てきて、最後に完全に分かってくれた時は本当にうれしかった。

今年のぶどうは超甘いよ～！

9月3日、ブドウを育ててきた3年生がブドウの生育状況を見ようと、初めて房をとってみました。ナイヤガラ黄緑色が鮮やかです。子どもたちは一列に並んで、房から一粒ずつとっていきます。全員が取り終わるまで、先に取った子どもずっと待っています。何とお行儀の良い3年生！！みんなそろそろ、一斉に味見が始まりました。どの子どもも目を大きく見開き、「あま～い」の感動の声。職員もここ数年の中で最高の出来だで大絶賛でした。ちょっとの味見にもかかわらず、春ブドウを育てた先輩の4年生に、すぐさまお裾分けに駆けつけました。

二学期が始まった暑い教室に、おいしさを独り占めせず、ブドウの甘い香りを運んでくれた3年生でした。



学校の話題

閉校特集 ～思い出の品に想いを寄せて～ その3

学校の中にある懐かしいものを紹介していくコーナー、第3弾は西階段の踊り場に飾られている作品です。題は『30年後の姫川原』となっています。4～6年生72名で作ったとの記録です。上新バイパスや新幹線開通を想像しながらの姫川原の姿、ちょうど新幹線開通が迫ってきた今、あつというまの30年が立とうとしています。40歳前後の皆さんでしょうか？描かれた世代の方はぜひ思い出話をどうぞ学校にお寄せ下さい。お待ちしております。

